

会 議 録

(1 / 8)

会議の名称	平成28年度第1回川越市立美術館協議会
開催日時	平成28年 7月15日(金) 午後 2時00分 開会 ・午後 3時30分 閉会
開催場所	川越市立美術館会議室
議長(委員長・会長)氏名	会 長 宮 澤 光 造
出席者(委員)氏名 (人数)	副会長 梅 津 元 委 員 長 江 艶 子 委 員 神 山 正 久 委 員 井 口 修 一 委 員 高 杉 雅 章 委 員 山 田 誠 次 委 員 尾 崎 勝 美 委 員 塚 原 ま り (8 名)
欠席者(委員)氏名	無
事務局職員職氏名	文化スポーツ部長 庭 山 芳 樹 館 長 岡 部 秀 子 副 館 長 永 島 芳 典 主 幹 谷 平 絵美子 副 主 幹 横 山 り え 主 査 濱 田 千 里 主 査 折 井 貴 恵
会議次第	1 開会 2 委員紹介 3 職員紹介 4 議題 (1) 正副会長の選出について (2) 平成27年度事業報告について (3) 平成28年度事業計画について (4) その他

5 閉会	
配布資料	<ul style="list-style-type: none">・ 次第・ 川越市立美術館協議会委員名簿・ 資料 1 川越市立美術館データ表・ 資料 2 川越市立美術館特別展記録・ 資料 3 アンケート集計表・ 資料 4 川越市立美術館の教育普及事業と学校との連携について、平成 2 7 年度教育普及事業・ 資料 5 平成 2 8 年度特別展・タッチアートコーナー展示スケジュール、平成 2 8 年度教育普及事業スケジュール・ 参考資料 GUIDE、K a r t - N E W S、平成 2 8 年度展示案内、小学生向け利用案内

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
館長	1 開会 本日の協議会は委員の過半数が出席しているため、川越市立美術館条例に基づき、会議が成立することを報告いたします。
館長	2 委員紹介 【委員自己紹介】
館長	3 職員紹介 【文化スポーツ部長及び事務局職員紹介】
会長	4 議題(1)正副会長の選出について 委員の互選により、会長に宮澤委員、副会長に梅津委員がそれぞれ選出された。 【会長あいさつ】 当協議会委員については、今期で4期目となります。会長職を通じて、川越市立美術館の発展のために尽力していきたいと考えています。
副会長	【副会長あいさつ】 当協議会委員については、今期で2期目となります。今後も自分の経験をふまえて、参考にさせていただきたいことなどを発言していきたいと考えています。
議長（会長）	4 (2)平成27年度事業報告について それでは、議題(2)平成27年度事業報告について、事務局から説明をお願いします。
副館長	美術館の概要、資料1について説明
事務局	資料2、3について説明

<p>主幹</p> <p>議長（会長）</p> <p>議長（会長）</p> <p>事務局</p> <p>副会長</p> <p>副館長</p> <p>議長（会長）</p> <p>副会長</p>	<p>資料 4 について説明</p> <p>只今の説明に関して御質問はありますか。</p> <p>秋季特別展のアンケートに答えた数が 7 人で、非常に少ないのですが、理由はあるのでしょうか。</p> <p>アンケートの設置が遅れたためです。 秋季特別展以外は、初日から設置しましたが、いずれも回答率は 3 % 程度となっています。観覧者の御意見を反映させていくうえでも、回答率を上げる工夫をしたいと考えています。</p> <p>特別展、常設展の観覧者が一昨年度よりも減少していますが、平成 27 年度当初に立てた観覧者数の目標と比べてどうでしたか。</p> <p>基本的には、平成 26 年度の実績を上回ることを目標に考えていましたが、このような結果になりました。これには理由があり、特別展の観覧者が増えれば、おのずと常設展の観覧者も増えるのですが、昨年度は、秋季特別展で現代美術を取り上げ、冬季特別展で郷土の歴史・文化を取り上げるということで、この 2 本の特別展については、観覧者数が伸びないということはあらかじめ想定していました。したがって、夏季特別展で観覧者数を補うべく、会期を長く設定したのですが、猛暑の影響で思ったより伸びなかったことが原因と考えています。ちなみに、平成 22 年度夏季特別展「竹久夢二展」も猛暑の影響で観覧者数が伸びなかったという例もありました。</p> <p>アンケート結果では、特別展を観るためにはじめて川越市立美術館に来たという方が過半数を超えていますが、こうした新規の観覧者を獲得していくことが大切だと思います。</p> <p>公立美術館は、全般的に、客層の裾野を広げる努力をする必要があります。その意味では、新規の観覧者の比率が高いということは、一定の評価ができます。当該年度の観覧者数からは見えてこなくても、新規の観覧者増による客層の開拓は、長期的な集客増につながる期待が持てるから</p>
---	---

議長（会長）	<p>です。</p> <p>アンケート結果に、展覧会を知ったきっかけが、ポスター・ちらしによる場合が過半数となっていますが、例えばどのようなところに配付しているのでしょうか。</p>
事務局	<p>市内公共施設、市内小中学校、自治会、県内の高校、全国の主要な大学・美術大学、近隣市の社会教育施設、市内商店街店舗や宿泊施設、カルチャーセンター、美術関係業者、全国の美術館・博物館等です。</p>
議長（会長）	<p>効果についてはどのように考えていますか。</p>
事務局	<p>もちろん効果はあると思います。しかし、全体的に考えると、もっと美術館に来てほしいと思っています。</p>
塚原委員	<p>高校や大学と連携を行うことによって、観覧者を増やすということもできると思いますが、その点はいかがでしょうか。</p>
議長（会長）	<p>私が勤務している尚美学園大学には、ポスター・ちらしが届いており、掲示しています。連携についていえば、大学となるとゼミ単位、高校となると美術部単位ということになると思います。</p>
高杉委員	<p>高校では、音楽・書道・美術が選択科目となります。その中で、音楽を選択する生徒が最も多く、次に書道、美術の順となります。例えば、市民ギャラリーを利用して、高校の総合美術展を開催するなどできないのでしょうか。美術部も早めにスケジュールを立てるので、相談してみたいかがでしょうか。</p>
塚原委員	<p>市民ギャラリーでは、中学校美術部の祭典を開催しています。高校版の美術部の祭典が開催できれば、美術館の認知度はさらに高まるものと思います。</p>
主幹	<p>現在、実際のところ高校との連携はありません。高校生、大学生の利用が少ないので、観覧者を増やすという意味においても、今後の課題であると考えています。</p>

長江委員	川越美術協会では美術館と協働して、市内在住の小中特別支援学校の児童・生徒を対象にした「川越百景絵画展」を実施しています。好評につき今年度で3回目を迎えることになりました。市から補助金が出ている事業であり、このような事業を通じて、子どもたちに文化芸術に興味を持たせることが、今後の川越市が良い方向に進んでいくことにつながるものと考えています。
議長（会長）	補助金という話も出ましたが、美術館としてメディア等の広告なり宣伝にかける予算はどれくらいあるのでしょうか。
副館長	広告料の予算措置はありません。したがって、学芸員が持つパイプで、なんとかメディア等で取り上げてもらっているという状況です。観覧者がこのまま減少してしまうのではないかという危機感を持っており、これまでどおりのやり方では通用しないと思っております。したがって、来年度の予算要求では、広告料につきましても、要求していきたいと考えております。
議長（会長）	そのようにしてください。
尾崎委員	冬季特別展は、内容が非常に良かったと思います。しかしながら、観覧者数が伸びなかったということが大変残念でなりません。近時、様々な美術館の展覧会でタイトルを工夫しているものも多く見受けられますが、かえって内容をわかりにくくしているようにも感じています。安齊羊造という存在が市民に認知されていなかったという点では「この絵、私が持っていました。」というタイトルをさらに工夫した方が良かったのではないかと考えているのですが、その点いかがでしょうか。
事務局	副題「収集家・安齊羊造と近代日本画家との愉快的交流」が展覧会の内容となっています。安齊羊造が知られていないこと、また、作品の内容を補うという点においても、ポスター・ちらしを見た方が少しでも興味を持っていただき、足を運んでいただければと思い、このタイトルにしました。
議長（会長）	4 議題(3)平成28年度事業計画について 議題(3)平成28年度事業計画について、事務局から説明

	願います。
事務局	資料5（1枚目）について説明
主幹	資料5（2枚目）について説明
議長（会長）	只今の説明に関して、御質問はありますか。
副会長	<p>夏季特別展「川島清」は立体彫刻の作品ですが、埼玉県立近代美術館で開催されている「竹岡雄二 台座から空間へ」も立体彫刻の作品です。こちらは川島町の遠山記念館でも開催しており、共同開催という形をとっています。また、栃木県立美術館で開催されている「高木修展 特異な空間へ」も立体作品であり、この時期、奇しくも北関東で立体の展覧会が重なっている状況となっています。そうした点では、この機会に各館で連携するなど、宣伝の仕方を工夫することができると思っています。</p>
神山委員	<p>いかに観覧者を増やすかということですが、簡単な方法としては、リピーターを増やすことだと思います。ポイント還元や次回半券を持ってきたら割引にするなどが有効だと思います。また、小学生を対象にして、美術館に来たらシールを貼って一年間で何回来たかによって、景品を差し上げる。小学生は親と一緒になので、親の観覧が増えることにつながります。私が運営している「アートギャラリー 呼友館」を例にあげると、近所の方々が多く来館しています。したがって、近所の方々を大切にしています。また、観光客についても特性があり、川越を観光したら、その感想を自分のブログやフェイスブックに載せたり、友人に話をしたり、勝手に宣伝してくれる方もいれば、川越で食事しておしまいという方もいます。情報を発信してくれる方をより大切にすることが必要と考えています。世間では、春は若冲が人気でしたが、今は川越からもバスを連ねて赤坂迎賓館を見に行く方が多い、つまり宣伝効果だと思っています。川越市立美術館には、小茂田青樹や相原求一朗など、市民の宝である作品を有しています。そうした資源を有効に使って一般市民を巻き込むことが必要になってくるのではないのでしょうか。</p>
議長（会長）	先程、教育普及事業の説明がありましたが、様々なワー

議長（会長） 館長	<p>クシヨツプや学校と連携した事業を実施しており、美術館の事業の中でも、特に重要な部分を担っていると認識しています。教育普及担当が中学校の教員だからこそ成り立っているということだと思いますが、今後とも事業を継続し、展開するという点においても、市民からますます注目される分野だと思っています。</p> <p>4 議題(4)その他 事務局から何かありますか。</p> <p>第2回協議会ですが、本年度上半期の報告を中心に、年明けに開催したいと考えております。</p> <p>5 閉会</p>
------------------	--